

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 人間コミュニケーション学科

教授 松崎 昇

1. 教育の責務

1) 本学は、保健・福祉系の四年制総合大学として 20 年間ほどの歴史を有する。

うち教養系科目群（「総合基礎科目領域」）は、専門系科目群（「専門科目領域」）の基盤をなす。

すなわち、単なる職業人ではなく、広い視野と深い見識をもって国家社会に積極的に貢献していく人間を育成すべく、私達教養系教員は、日夜職務に邁進していくのでなければならない。意欲的に言えば、この教養系科目群こそが、専門学校とは異なる四年制大学の中核部分をなすわけである。教養系教員の職責は重い。

2) 私は、20 年度は健康科学部の福祉心理学科教員として、21-22 年度は理学療法学科教員として、主に教養系科目を担当した。

ほかに、福祉心理学科（人間コミュニケーション学科）の福祉系専門科目や看護学部の教養系科目も、幾つか担当・兼担した。

うち、過去 2 年間の科目担当状況は以下の通りである。

3) 21 年度担当科目

科目名	学年・時期	必選（学部学科・単複）	受講者数
経済と経営	1、2 年前期	選択	28 名
社会学と社会システム （社会理論と社会システム）	1 年前期 （1、2 年前期）	福心必修 他選択	40 名
人間学	1、2 年前期	選択 Omnibus	82 名
異文化比較論	1、2 年前期	選択 Omnibus	21 名
公的扶助	2、3 年前期	福祉必修 Omnibus	37 名
社会保障論 II	3 年前期	福祉必修 Omnibus	15 名
経済と経営（Repeat）	1、2 年後期	選択	25 名
現代社会と倫理	1、2 年後期	選択	7 名
社会保障論 I	1、2 年後期	福心必修 他選択 Omnibus	20 名
経済と政策	2 年後期	看護選択	18 名
現代の倫理	1 年後期	看護選択	28 名

4) 22 年度担当科目

科目名	学年・時期	必選（学部学科・単複）	受講者数
現代社会と倫理	1、2 年前期	選択	22 名
人間学	1、2 年前期	選択 Omnibus	67 名
異文化比較論	1、2 年前期	選択 Omnibus	17 名
社会保障論Ⅱ	3 年前期	福祉必修 Omnibus	30 名
経済と経営	1、2 年後期	選択	8 名
社会学と社会システム (社会理論と社会システム)	1 年後期 (1、2 年後期)	福心必修 他選択	34 名
宗教学	1、2 年後期	選択	11 名
経済と政策	2 年後期	看護選択	4 名
生命倫理	1 年後期	看護選択	35 名

5) 授業外活動

過去 2 年間、授業の他に、以下のような活動を行った。

- 1} 21、22 年度 理学療法学科 主担任（1、2 年次生を担当）
- 2} 22 年度 富士河口湖高校連携授業「健康と科学」（全 23 回：うち 3 回分担当）
 - 第 21 回 「健康と死亡」 22.12.15
 - 第 22 回 「健康に関する東西の見方」 23.1.12
 - 第 23 回 「みんなで議論してみよう」 23.1.19

- 1} は所属学科での担任活動である。

副担任と共に、主に成績等不振学生への働きかけ、多欠学生の保護者への連絡・相談、学科における保護者説明会後の面談、等を行った。残念ながら留年生・退学生も若干生じた。

- 2} は地元連携高校への出張講義活動である。

理学・作業・福祉・看護計 4 名の教員（4×5=20 回）のあとを受け、共通科目長として、締めめの 3 回分を受け持った。

うち初めの 2 回は、社会・人文的な視座から、健康問題に鋭く切り込むよう心掛けた。受講生は、これまでと異なる意外な切り口に驚いたようで、反応は上々だった。最後の 3 回目、前半は生命倫理を教授、後半には、事前に受講生から募っておいた諸論題につき、グループで、および全員で、議論してもらった。徐々に皆喋り出し、活発な議論となった。

2. 教育の理念

1) 大学の教育理念

本学は、「豊かな人間力」「専門的な知識・技術力」「開かれた共創力」という3点を建学の精神としている。この精神のもと、大学の3ポリシー、更にそれを具現した各学科の3ポリシーがある。うち核となる大学のディプロマポリシーは、高い倫理性、幅広い教養、QOLの理解、協働コミュニケーション力、社会人基礎力、自己研鑽力、等を旨とする。

2) 私の教育理念

以上を実現すべく、私が授業で留意しているのは、次の2点である。

1} [体系性・論理性] の徹底

私が授業を展開する際に最も心掛けていることは、体系性・論理性である。

受講生を指導する際にも、この点の指導に最も力を入れている。なぜか、学問の真髄はこの点にあるからである。

2} [自ら調べ考え発表できる人物] の育成

では受講生をどのような人物に育て上げるか、それがこれである。

①能動性

受け身ではなく、能動的に言動できる人間になること。

②インプット面

調べる際には、玉石混交の溢れ返る情報塊のなかで、何が信用できるものであるか常に反省するとともに、必ず複数のソースに当たるよう指導している。

③思考過程面

調べて終わりではなく、自ら考えることができる人間になること。

これをやらないと、浅はかな受け売り・単なるおしゃべりで終始してしまう。

授業では常に[調考]セットで意識させている。

そしてこの思考過程こそが学修の中核であることを徹底的に指導している。

④アウトプット面

自分(達)の考えは、外に出さなければ、他者・社会にはわからない。その外への出し方も、可能な限り訓練するようにしている。都合[調考発]の訓練である。

3. 教育の方法

1) 講義

1} Power Point (PP) を用い、先述のように体系的論理的な展開を心掛けている。

2} PP は、毎回事前に、科目 Team の「一般」の「ファイル」の「クラスの資料」内に掲示し、受講生に事前の一読を促している。

3} 毎回の授業内では、一塊の説明が終わる都度、質疑応答の時間を取るよう心掛けていく。90分間の授業で、3回程、1回につき3人程、であろうか。

具体的には、教室内であればランダムに指し、遠隔であればランダムに番号名前で振り、質問感想等をなんらか自在に喋ってもらうようにしている。

2) 毎回課題

授業内容の定着や応用を狙い、換言すれば積極的な調考の姿勢を身に付けてもらうべく、毎回、復習用の課題を出している。

Teams を用いて課題配信・解答回答返信となっている。

設問は5問、うち1問は、当日の授業や課題に関する質問感想等の自由記述である。

受講生からは、「他の科目ではこんなヘビーな課題はやっていない」「たいへん」等の反応が多いが、4問、自分から具体的に調考しなければならないので、毎週させられた結果、否応なく調考力が身に付いた、といった反応に落ち着く。

3) Active Learning (AL)

各授業では、可能な限り、ALを行うようにしている。

その Style は三態あり、原則として、終盤の3回を当てている（下記は15回授業の場合）。

うち、第13回のGPP（グループパワーポイント）の作り方の事前説明では、ものの考え方・書き方の指導もしっかりと行っている。

すなわち、PPやReportの記述方法は「1現状、2問題点、3原因、4従来の対策、5私（達）の提案」を原則とすることを提示している。

また、ALの説明・結果表示等は、Teamsも用いて行っている。

すなわち、びっしり授業をしているため/回数が8回と少ないため、直前の授業内で説明をしきれない場合には、Teamsを用い、反転授業として、授業外でAL用の説明を行っている。その場合には受講生も、事前の視（聴）・理解を要求されることになる。

1} 第13回 GPP 発表

受講生は事前に、グループをつくり、グループで1本、PPを作成する。グループは6つとなる。論題は指示領野のなかで自由。

当日はグループ毎に、順次「発表・質疑応答」を行う。

採点はFloor（受講生各人）と先生が別々に行う。各人は、与えられたルーブリックに従い、自分達のグループを除く5グループに対し、採点する。

質問をすると、1回につき、質問者が属するグループの全員が2点貰える。

2} 第14回 GD（グループディベート）

同じグループを使い、次にDebate（対論）を行う。論題は3つ、指示する場合が多い。

Y/Nの両側に分かれ、「立論・対論・結論」の三過程で行う。

うち対論部分に時間を長くとっている、ここで両Gが自由に激論することになる。

対論の終盤には、Floorからの質問も募る（1回質問すると質問者が属するグループの全員が2点貰える）。

採点はFloor（受講生各人）と先生が別々に行う。各人は、与えられたルーブリックに

従い、自分達のグループが属する組を除く2組に対し、勝ち負けを判定する。

3} 第15回 TD (トータルディスカッション)

最後に、(グループは解散し)全員で、Discussion (討論)を行う。

論題は、事前に各人から3つ募ったものを、加重集計し、希望が多かった順に6題採択、事前に公表する(ほかに先生が1つ追加する)。

1回しっかり喋ると5点得る。

受講者数が多い場合には、司会2人を立てる(司会点を与える)。少ない場合には先生が司会を行う。

※}ほかに、「社会学と社会システム(社会理論と社会システム)」では、国試科目なので、1年生ではあるが、過去3か年の国試問題を、第14回にやってもらっている(解答後採点解説)。

4) 期末考査

全文記述型のReportを課している。

課題3問、ほかに授業の感想等を自在に記してもらっている。

4. 教育の成果

授業評価アンケートにより以下記載する。

例として、22年度担当科目より、15回科目から「経済と経営」、8回科目から「宗教学」を取り上げる。

1) 「経済と経営」(総合評価4.7)

1} 成果

質疑応答、課題解答文に対するフィードバック、時間外勉学、等において評価が高かったようである。

①授業内では、可能な限り質問感想を募り、応答するようにしている。

②課題では、一方で積極的に調考する姿勢を身に付けてもらえるよう提示するとともに、他方で提出された解答回答文1つ1つに対し丁寧なコメントを心掛けている。

2} 反省

他科目との関連、期待、シラバス活用、において評価が今一つだったようである。

①本科目は単体であり、他科目との関連性提示はなかなか難しいが、今後「社会学と社会システム」等、近隣科目との関連性に言及したい。

②本学学生の大部分は、元々経済・社会系に苦手意識を持っているようである。今後は、PPの分量を削減するとともに、資金運用情報の提供などにも時間を割きたい。

またかつてNHKが連続特集した「Project X」シリーズより1点選び、DVDを視聴してもらう予定である。講義ばかりでなく、経済経営的な課題解決型の動画を視聴することにより、仕事への情熱や課題解決力の必要性等を感じ取ってもらえれば幸いである。

③シラバスの「授業計画」等は、各回 PP の目次に移入反映されていることを受講生に徹底しよう（目次の重要性を説明しよう）。

2) 「宗教学」(総合評価 4.4)

1} 成果

シラバス活用、時間外勉強、理解関心、等において評価が高かったようである。

①こちらでは、各回 PP の目次を、内容理解への手引きとして理解してくれたのだろう。

②また復習課題対応で、受講生は毎回よく調考してくれたものと思われる。

③担当が今回初めてということもあり、本科目の準備・実施にはことのほか力を入れたが、結果として、受講生の理解関心が高まったのは、うれしいことである。

2} 反省

内容速度、興味、において評価が今一つだったようである。

①まずは正味 5 回の講義回数内に、質量ともに充実した内実を詰め込んだせいで、内容が難しくスピードが速い、という事態が生じたものと思われる。これはいかんともしがたい。本科目の 15 回化を願うのみである。

②歴史・教学等々、膨大な内容があるなか、少しでも受講生の関心を引けるよう、現在の諸問題にももっと言及するよう心がけよう。

3) 改善点

担当諸科目全体を通じ、今後、以下の点に努めたい。

1} 内容を厳選し、ともかく授業の分量を減らしたい。

2} できた余裕の時間を用い、一方で質疑応答タイムを増やし定着等を確認していくとともに、他方でちょっとしたグループワークの時間も作り能動的な姿勢を引き出すようにしたい。

5. 今後の目標

教養科目群は、一方で専門科目群の基礎をなすとともに、他方では国民・社会人として高度の汎用的な〔人間力・現代力・打開力〕を身に付けてもらうことを狙いとする。

かかる観点から、以下の諸目標を掲げる。

1) 短期目標

授業内外でさまざまな刺激をすることを通じ、受講生に、社会・人文系の能動的な〔調考発〕活動を活発化してもらえるよう、意を尽くしたい。

2) 中長期目標

今後本学は、教養科目群を中心としてカリキュラムの改定を予定している。

そこで教養科目群を改編し、立派な国民・社会人を世に陸続と送り出せるよう、社会・人文系科目担当者として、またリベラルアーツ長としても、微力を尽くしたい。

6. 資料 すべて 22 年度分 (別添ファイル)
1. 富士河口湖高校連携授業 第 21 回 授業資料 (PP)
 2. 同上 第 21、22 回 受講生の感想文
 3. Syllabus 例 「現代社会と倫理」
 4. 授業資料例 「異文化比較論」 第 7 回 PP
 5. 毎週課題例 「社会学と社会システム」 第 2 回
 6. Active Learning 資料例 「生命倫理」(看護)
 7. 期末 Report 課題例 「経済と経営」
 8. 授業評価アンケート例 「経済と経営」、「宗教学」

富士河口湖高校・健康科学大学
連携授業 [健康と科学]

第21回「健康と死亡」
ー健康を社会面から見てみるとー

R4.12.15 1/3
健康科学大学
健康科学部
理学療法学科 松崎 昇



1

目次

1. 健康って？
2. 人口動態
3. 死因 内因
4. 死因 外因

2

1ー1. 健康とは



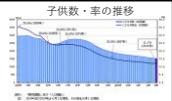
1. 1947年 WHO 憲章前文

- 1) 健康とは、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることである。
- 2) 到達しうる最高水準の健康を享受することは、万人が有する基本的権利である。

2. 良き生

3

1ー2. 健康寿命



1. 平均寿命 0歳における平均余命

- 1) 日本 男82歳、女88歳 世界1の長寿大国 (同数:香港・マカオ)
長寿は素晴らしいこと 人類究極の理想! 100歳以上9万人
- 2) 「少子高齢化問題」は間違い。→正しくは「超子減問題」
- 3) 下位 アフリカ諸国 50歳代
- 4) 昔:乳幼児死亡率が高い [多産多死→多産少死→少産少死]

2. 健康寿命 自立した生活ができる年数

- 1) 日本 74.1歳 これも世界1
2位シンガポール73.6歳、3位韓国73.1歳
- 2) 世界平均63.7歳 183位レソト44.2歳 (以降統計なし)

順位	国名	健康寿命 (歳)
1	日本	74.1
2	シンガポール	73.6
3	韓国	73.1
4	ドイツ	72.9
5	フランス	72.8
6	イタリア	72.4
7	オーストラリア	72.1
8	スウェーデン	72.1
9	オランダ	71.9
10	デンマーク	71.9

4

1ー3. 健康の反対は？

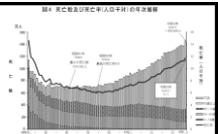


1. 健康を突き詰めて考察するには

- 1) 物事は、それ自体を攻究して、わかることは50%。
そうでないものと比較考察することで見えてくる世界がある。「...でない」50%
- 2) そこで今日は、「健康」でない状況を見ていくことによって、健康であることの意味・ありがたみを、逆に浮かび上がらせていこう。
- 3) [平和と戦争][安全と危険] 組織運営の要諦~Risk Management
2. 不健康? 荒れた生活・爛れた生活・暴飲暴食・夜更かし・酒煙草...
でも体が強い人は、無茶苦茶な生活をしていても、ピンピンしている。
3. 病気や怪我? うん、そうかな。でもそれって、途中経過じゃない? じゃ、病気やけがの究極最悪の到達点は?
4. 結局、健康の正反対は死亡でしょ。重病・危篤→病死・事故事件死
5. ということで、以下に、死についてみていこう。[(良き)生と(無念な)死]

5

2. 人口動態



1. 出生 81万1622人 超子減
2. 死亡 143万9856人 高齢化のため増
3. 自然増減 -62万8234人

4. 在留外国人 296万1969人 わが国は移民大国(4位:DEU・USA・ESP)
5. 婚姻 50万1138組
6. 離婚 18万4384組
7. 合計特殊出生率 1.30 (1人の女性が15歳から49歳までに産む平均子子供数)
8. 完結出生児数 1.94 (夫婦の最終的な平均出生子子供数)

6

3-7. 癌とは？

1. 癌とは**遺伝子の変異**である。
先天的・後天的 傷つく(置換・挿入・欠失)
2. 遺伝子の変異は**不断に生じている**。
 - 1)複製エラー 偶然 1000-2000/日
(DNA損傷:1日1細胞当たり数十万回)
 - 2)環境 活性酸素、化学物質、放射線、ウイルス、加齢・・・
3. **通常はそれを修復するが、修復が間に合わない/修復できないと、増殖してしまう。**
病的変異

13

3-8. 病気発生の機序 健康体となるには

1. 一般論: **[活性酸素の過剰産生(数%)→慢性炎症→新病・難病多発]**
 - 1)活性酸素のメリット 外来の細菌やウイルスを除去する。
 - 2)活性酸素のデメリット 余った分は、身体を酸化する(錆)。
2. 自己免疫力が
 - 1)低下すると:癌
 - 2)過敏になると:自己免疫疾患(アレルギー等)
3. **[低体温+少酸素]**が万病を引き起こす。
4. 対策
 - 1)ゆえに、**過剰な活性酸素を除去**するとよい。抗酸化物質
 - 2) **自己免疫力を強める**とよい(過敏ではない)。
 - 3) **高体温**(体を中から温める) + **深い呼吸**(腹式呼吸)

14

3-9. 古来の発想による仮説

1. 癌の主因は**食事**ではないか?
 - 1)「食が血となり肉となる」=**食事が身心を作る**。医食同源
[悪いものを食べる→身心が悪くなる]
 - 2)ところが医師は「普段どのような食事をしていますか?」とは聞かない。
2. 前代にはなかった体内摂取様式三態。
 - 1)近現代における飲食物・肥飼料・医薬品の**大量**[生産→消費]体制。
 - 2)特に**化学物質**を大量供給・投与→体内摂取。
 - 3)近年技術的に可能になるや、**遺伝子操作**を駆使→新食物摂取。
3. 上記3点の膨大なメリット・無視できないデメリット、両面を見る必要。→

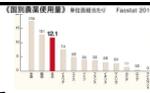
15

3-10. 近現代における食の大量生産

1. 新たに開発され使用されている**[農薬・食品添加物・遺伝子組換作物(食品・飼料)・ゲノム編集作物(食品・飼料)]**
2. 地域・民族差による植生・食物差 地産地消 合う合わない 冷温
3. メリット 飲食物・肥飼料等の大量**廉価安定**供給により、健康・長寿、美味・風味・見た目の良さ、等を得た。
4. デメリット **[農薬・食品添加物・遺伝子組換食品・ゲノム編集食品]**を、**大量**[使用・摂取]すると、特にそれらを**[多種重複]**していくと、**身心の不調・万病を帰結する**(おそれがある)。
5. **ADI**(1日許容摂取量:無毒性量(毎日・生涯)×1/100)で使用基準を策定。

16

3-11. 日本の農薬・食添等

- GMF (Genetically Modified Foods)、GEF (Genome Editing Foods)
- 
- 日本は**大量**に使用しており、かつ近年**規制緩和**している。
1. 農薬 **日本は農薬大国** 殺虫菌・除草・成長調整等 残留・収穫後
例:グリホサート(除草)、ネオニコチノイド(殺虫)
 2. 食添 **日本は食添大国** (英21、日約1500種類)製造、保存、外見、栄養
例:亜硝酸ナトリウム(発色防腐)、トランス脂肪酸(防腐)
 3. GMF **日本はGMF大国** 醤油・油・砂糖・調味料・加工品/畜産物(GMO)
外部から**別の生物の遺伝子を注入**
 4. GEF トマト、マダイ、トランプグ/大豆、ジャガイモ、卵、稲、サバ、レタス、ミニ豚、マグロ
自分の遺伝子の一部を改変切除(+GM組み込みもあり)
- ※ その他 ミネラル不足/食品自体の問題(砂糖・小麦・肉・乳製品)

17

◎ここまでで

1. ここまでで重要なのは、
2. ここまで、質問等、どうか?
感想でもいいよ。
3. 次は外因に入ります。

これで一休み

18

4-1. 死因 外因 国家の存在理由

1. 外因 事故事件 社会系
- 1) 不慮の事故 3万8296人
 - 2) 自殺 2万0282人
 - 3) 他殺 254人

☆ 国家

- 1) 国家の存在理由は、国民に安全な社会を提供する点にある。
安心して暮らせる。生活
- 2) 国家の基幹業務は[国防・治安: 祭祀・教育]の4点である。十皇統護持
- 3) うち国内的に、直接に、肝腎なのは治安。不慮の事故対策、自殺対策も。

19

4-2. 不慮の事故による死亡者数

1. 不慮の事故による死亡者数: 内訳
- 1) 転倒転落墜落 10188人
 - 2) 窒息 7986人
 - 3) 溺死溺水 7174人
 - 4) 交通事故 3535人
 - 5) 火災 931人
 - 6) 中毒 502人
2. 上位三因で2万5348人: その多くが家庭内事故: 老人幼児
老人が、①物に踏み、
②餅を喉に詰まらせ、
③浴槽に溺れ、亡くなっている。 } 老人等の行動・生活に留意すれば、
事故は結構減らせるね。

20

4-3. 交通事故の推移

- 1. 発生件数の推移
Peak時(2004年: 95万件)の
4割 半減強!
- 2. 死亡者数の推移
Peak時(1970年: 16765人)の
2割 1/5に激減!
- 3. 死亡者数減の原因
飲酒厳罰・歩行者保護・
救急医療技術向上・救救士・スマホ・
信号機・車の安全性能向上...
- 4. 今後 さらに減らせるといいね 自動運転



21

4-4. 年齢階級別にみた死因順位 自殺

- 1. 10-30歳台 自殺!
- 2. 40-80歳台 癌
- 3. 90歳台- 老衰
- 4. 若者の死因1位は自殺!
- 5. 若者が夢と希望に燃える
世の中にしらないとね。

年齢	第1位		40-49 男性死因物 (種別)	2,027	25.1
	死 因	死亡者数			
10-14	自殺	129	40-49 男性死因物 (種別)	4,280	45.3
15-19	自殺	652	50-54 男性死因物 (種別)	7,444	82.1
20-24	自殺	1,284	55-59 男性死因物 (種別)	11,362	147.9
25-29	自殺	2,341	60-64 男性死因物 (種別)	17,400	241.4
30-34	自殺	3,176	65-69 男性死因物 (種別)	31,909	409.1
35-39	自殺	3,297	70-74 男性死因物 (種別)	59,724	626.1
40-44	癌	329	75-79 男性死因物 (種別)	60,432	696.1
45-49	癌	652	80-84 男性死因物 (種別)	67,401	716.7
50-54	癌	1,284	85-89 男性死因物 (種別)	64,403	673.1
55-59	癌	2,341	90-94 男	49,248	507.1
60-64	癌	3,176	95-99 男	39,192	311.1
65-69	癌	3,297	100歳以上 男	15,400	124.1

22

4-5. 自殺の内訳

- 1. 人数 年2万人。
- 2. 性別 男が女の2倍。
- 3. 年齢 50、40歳台が多い。
- 4. 月別 3月が最多。
- 5. 理由 健康、経済・生活、家庭。
- 6. 県別 山梨がWorst(青森同率: 発生地)。

23

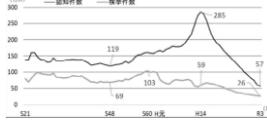
4-6. 自殺率Ranking (10万人当たり)

- 1. 日本 25/183位 15/10万人 高い!
- 2. 高い 韓国、ロシア、ベルギー、アメリカ...
- 3. 低い ヨルダン、シリア、フィリピン...
- 4. 世平 9人
- 5. 原因 民族性がまじめなんだね。
- 6. 自殺に至らないコツ
物事をあんまり気にしない、くよくよしない(^^) /

24

4-7. 犯罪発生率

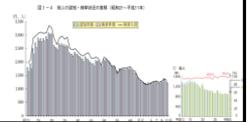
1. 刑法犯認知件数 57万件 1/5に激減！
Peak 2002年 285万件
- 1) 若者減
- 2) 街頭犯罪減
- 3) 数値目標化→減操作
2. 検挙率 47% 5割
3. 都道府県別 刑法犯認知件数
 - 1) 上位3県 1大阪、兵庫、埼玉
 - 2) 下位3県 45秋田、46長崎、47岩手



25

4-8. 殺人事件の推移

1. 殺人認知件数(傷害致死等を含む) 874件 1/3に激減！ 死者285人
Peak 1954年 3081件
- 1) 若者減
- 2) 高齢者増
- 3) 暴力団員減
- 4) 面識率・親族率が高い。
面識/既遂検挙件数=210/231
親族/既遂検挙件数=127/231
2. 世界的にも減少



26

4-9. 世界の殺人発生率(10万人当たり)

1. 多いのは、圧倒的に中米小国群！
2. 主要国では
35位 露 8.21
60位 米 4.96
.....
3. で、わが日本は、ほとんどラスト！
154/156位 日 0.26
殺人が極端に少ない国！



27

4-10. わが国の災害は？

1. 自然災害大国 これはしょうがない。
 - 1) 地震・津波・噴火・豪雨(台風・梅雨末)・豪雪...
 - 2) だから公共事業大国だよ。建設会社が多い。
例: 道路工事～①橋とトンネルが多くなる。
②高度の災害対策も必要になる。
③ゆえに、建設費が高くなる。
2. 人為災害小国 昔から幸いな国。
そのかわり、わが国は人災が極端に少ない国！

28

◎ まとめ

1. 健康って[肉体的・精神的・社会的]に満たされた状態のことだよ。幸せわが国は健康長寿のすばらしい国だよ。
2. 健康の反対側を見ると、健康の意味が立体的に浮かび上がってくるよ。わが国の1年間の死者数は144万人だよ。人口、1年間に63万人も減っちゃってるね。
3. 内因系では、癌が多いね。
癌は生活習慣や感染でなると言われてるけど、食事こそ一大要因じゃないかな。
4. つぎに外因系では、不慮の事故死が多いね。
それは、老人幼児の生活に配慮すれば、結構避けられるよね。
もうひとつ、若者の自殺は問題だよな、夢と希望に満ち溢れた世の中にいていこうね。
殺人事件は極端に少ないよ、とてもいいことだね。0に近づきたいね。
5. 結論【食事に配慮し、老幼に配慮し、夢と希望のある快活な人生をすごそう！】
6. 次回は、健康を、人文系から更に見てみるよ。最終回は、みんなでDiscussionしようね。

29

3/16/1

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第 21 回 「健康と死亡」

22.12.15

(所属)

名前 渡辺 明花里

1. 今日授業を振り返って

今まで自分が考えたことがないようなことがたくさんあって、自分にとって新鮮な授業だった。今まで知らなかったことも驚くことがたくさんあった。日本と世界を比べて物事を見るということがあまりなかった。比べてみると日本は良い国なのかもしれない。でも、もっと改善できることはたくさんあると思うので、改善してほしい。難しいと思うことは、たいてい先生が熱心に教えてくれたり、とてもおもしろい授業だった。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第 21 回 「健康と死亡」

22.12.15

(所属)

名前 岩佐 花梨

1. 今日授業を振り返って

日本は自殺が多い国(はんと)というのを今日初めて知りました。特に最近若い人の自殺も多い(はんと)いうように感じます。若い人が(はんと)楽しく明るく過ごせる環境が必要(はんと)思いました。おとは対策すれば(はんと)死も(はんと)少(はんと)な(はんと)る(はんと)事(はんと)故(はんと)や(はんと)事(はんと)件(はんと)が(はんと)少(はんと)な(はんと)る(はんと)国(はんと)と(はんと)言(はんと)う(はんと)事(はんと)が(はんと)防(はんと)ぐ(はんと)事(はんと)は(はんと)少(はんと)な(はんと)る(はんと)事(はんと)と(はんと)思(はんと)う(はんと)の(はんと)ど(はんと)ろ(はんと)も(はんと)未(はんと)来(はんと)人(はんと)の(はんと)課(はんと)題(はんと)だ(はんと)と(はんと)思(はんと)い(はんと)ま(はんと)し(はんと)た(はんと)。

1. 今日の授業を振り返って

今年の授業はとても分かりやすくおもしろい時間でした。具体例や補足が沢山あり、楽しかったです。テーマは暗い感じでしたが、話を聞いていくなかでとても興味が深まりました。不明瞭な数値が文章中でいくつかあつたこともありました。私の知識に無いことに沢山触れられておもしろかったです。おもしろくて勉強になるこの両方を感じられ、とても良い時間でした。

1. 今日の授業を振り返って

健康について知るためには、反対側である「死」について知るという考え方に驚かされた。日本をより健康にしていくためには、食事や意識的に配慮し、老人・幼児に配慮して、私自信が「肉体的には」よく、精神的にも社会的にも健康になるといういいなと考へた。

1. 今日授業を振り返って

日本人の死因について何となくは知っていたけれど、
外国と内因に分け、世界と比べることも、日本人と
何が違うのかを詳しく知る事ができました。
世界と比べると、やはり割合が低い要因もいくつか
ある。その中、日本だけを見て悪いと思ってしまう
人達も感じました。
健康に生活していくためにも、夢と希望を持って、
いろいろな事を気にせず、生きていくことが
良い人達だと思います。

1. 今日授業を振り返って

健康と死亡について学びました。死は事故や自殺で
亡くなるだけでなく、生活習慣や普段の食事からなど、
あらゆる要因で亡くなることもわかりました。
殺人事件は事件で亡くなる場合もあり怖いと思
いました。自殺する場所でも、梨集が怖いのははじめは知
りませんでした。何か対策があることが嬉しいと感じました。
死するのには1つの要因だけでなく、さまざまな理由があ
ることを知り、完全に防ぐことは不可能だけど、自殺や事件
など、防ぐ事は少しでも減らしていけるようにしたいと
感じました。

1. 今日の授業を振り返って

^{いい}
日本の死亡率は低い
今回の授業では、自分が知っていることでも、それをもっと深く
知ることができた。日本の内因系の死因では、癌が多いが、他国
と比べると、そこまで高くはない。外因系の死因では、不慮の事故や死
が多く、特に老人などが多い。日常的に起こる行動で、転んだり、何か
を食べてのどを詰まらしたり、浴槽に溺れなくなってしまうことが多いと
知った。

1. 今日の授業を振り返って

健康と死の関係について、日本や山梨で自殺者が
多くなってきていることに驚いた。
自分の生活習慣や食生活などを見つめ直す必要。最近流行りの
で、不慮の事故が減少している。自分自身も注意が必要。

おはよう
（空）

1. 今日の授業を振り返って

健康が世界においても最高峰であることは知っていたが、^{料理?}10代~30代の死因が自殺であることは知らなかった。私は食事としても大好きなので、体へ気をつけた食物繊維などを中心にし、お菓子などの物を摂取して行きたい。

1. 今日の授業を振り返って

今日の授業を通じて、健康とは肉体的・精神的・社会的の満足を満たす能力のことであるということとあらためて認識することができた。また、健康とは人間が健康であるという意味だけでなく、その国の状況である、治安である、という事もあり、非常に勉強になった。自分も少しづつなりたいところがあり、今回の授業で著者の自己満足が一番多いということを実際に自分の弱さを対峙し、受け止めることが目標と持ち、生きていきたいと思う。

朝比奈 真生

命は大切

1. 今日の授業を振り返って

WHOが示している健康に「社会的にも」というのは
知らなかった。上、今の驚き。
日本人は世界的に見ても大抵バッドな人で、病気(癌、心臓
病)で亡くなる人は多い。中には、意外に
自殺の人が多い。これは、

1. 今日の授業を振り返って

今回の授業は「健康と死亡」という見方を
変えて面白い内容だった。しかし、日本は車禍事件が
少ない国であることや、若者の自殺を防ぐための
雰囲気を作った内容があった。決して悪いことばかり
はないが、若い世代は死にはあきらまないと
考えた。 浅井 希

1. 今日の授業を振り返って

話かたによく面白かった。1つ1つの説明が深いけど頭にスラスラ入ってきた。言葉の意味を見ていくとおかしなことや正しいこともあると思った。日本は癌が死因 第1位だが世界でみると TOP10に入っていないことに驚きを感じた。タバコをやめると人が多いのにモカがわらず肺癌が多いのは何故だろうと思った。農業も虫は害するけど人には全くないのは自分もそう思った。山梨が自殺が多いのは嫌なことだと思った。人口が少くない国だが自然災害が多いのはしょうがないと思った。死因が世界で少なくていいことだが、人口が多い国で若い人の自殺が多いのはいけないことだし、死ぬことについては否定しないが夢や希望を持たせられる国になればもっといろいろな事が改善されると思った。自分はニュースや政治などを全部信じていなくて、自分で考えたり行動したり、解釈しているのも、もっと知識を付けてより正しく判断できるようにしていきたい。

小野 良

14人

14枚

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第22回 「健康に関する東西の見方」

(所属)

23.1.12

名前 岩佐花梨

[今日の授業を振り返って]

東西の宗教の考え方が違うとばかりに思っていた。特に仏教の考え方の
には仏教の考え方がその人間の人生を否定しているというところが
くりこまれた。東西の考え方がよく異なる点を感じた。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第22回 「健康に関する東西の見方」

(所属) 3-3-6

23.1.12

名前 大森 悠和

[今日の授業を振り返って]

東洋と西洋の違いが最初はおろそかに理解していたが、
利権は自然に根ざしている。西洋は人としてのものに根ざしていること
がわかった。考えは違っても両方大切な考え方だと感じた。

[今日の授業を振り返って]

4-4で「食医観」があった。悪い食事は体に悪影響をもちやすことや普通の食事は普通に健康になることは予想がつく。しかしこのことは東洋思想がもたらしていたのび、今でもこの予想が「できると考えた。

[今日の授業を振り返って]

西洋的見方と東洋的見方では考え方が全然違っていたので、これには考え方が変わるという事とこの新しい見方があるから新しい見方での考え方が良いのかなと、思いました。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第22回 「健康に関する東西の見方」

23.1.12

(所属) 3-3

名前 大村日菜

[今日の授業を振り返って]

東洋と西洋において、人間とは何かについてのものの見方が異なる。
大きく違う点には驚きを感じた。自分自身が持っている価値観
が国によって異なり、同じ人間でも住んでいる地域が違えば
価値観が変化する点が不思議だった。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第22回 「健康に関する東西の見方」

23.1.12

(所属)

名前 杉本 七尋

[今日の授業を振り返って]

日本と海外、神と仏の考え方の違いなどが分かりやすかった。
おもしろかったことの一つは分野によって色々なことが知られておもしろかった。
私たちのあたりには他国を全く別物と見たり国の個性を思った。
とても刺激になる授業で楽しかった。

[今日の授業を振り返って]

西洋人と東洋人の考え方は 180° 違うこともあれば同じこともあって、それはやがて
1 分かった。人間は何のために誰が作ったことかを疑問に思いつづけていたが、
それは正解がなさうかと思つた。生とはすばらしいことであり、悪がな
ことかと思つた。人間中心の世界は、よく分らない。医者の手法の違いに
興味をもつた。しかも、食べ物について角解もないのは面白さにそうかと思
つた。

[今日の授業を振り返って]

西洋思想による医療観と、東洋思想による食観は大きく異なつ
ていて、違いを知ることができ、良い機会になりました。
西洋人は今、ホストと何が違うかを調べていくことが多くあり、
東洋人は自然のままを大切にしていくにたがと異なりました。
ストレスは悪い意味ばかりではないと知ったので、適度は
ストレスは大事にしていくことが大切だと知りました。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第 22 回 「健康に関する東西の見方」

23.1.12

(所属)

名前 三橋 伶奈

[今日の授業を振り返って]

東洋と西洋と"ものの考え方が"かなり違っていることが
驚きました。

今の医療では西洋医学が主流で"汗じ", 東洋医学の
語を聞いても, 自然の摂理に従っていて体には優
しそうで"好"思"いました。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第 22 回 「健康に関する東西の見方」

23.1.12

(所属)

名前 武藤 ひばり

[今日の授業を振り返って]

健康は西洋人, 東洋人で考え方が違うことをはじめと知りました。

また健康だけでなく医療についてもかなり違いがあることが分かり

ました。人間論やまとめ論を聞いて, 人々個人で"独自性"をもち

いるが"共通性"があることがわかりました。またストレス=悪であったがストレ

スは日常生活において"いい"ことであることを知りました。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第22回 「健康に関する東西の見方」

(所属)

23.1.12

名前 宇間 駿奈

[今日の授業を振り返って]

東洋思想と西洋思想の考えがそれぞれ全く違うことに驚きました。特に医学では、宗教の差から、薬いところは必要なくあればいざいなくない。薬いところは身取りのぞくべきであるなどのように真反対で興味がありました。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第22回 「健康に関する東西の見方」

(所属)

23.1.12

名前 森田 明依里

[今日の授業を振り返って]

西洋系と東洋系の違いがわかりました。私は東洋系が身近なので、考え方が東洋系にならざるを得ないですが、西洋系の考え方も多くあるのだと思いました。やはり、アジアとアメリカ、ヨーロッパなどの国々での大きな違いの理由であると思えました。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第 22 回 「健康に関する東西の見方」

23.1.12

(所属)

名前 朝比奈 隼正

[今日の授業を振り返って]

東洋や西洋などの文化のものの見方、考え方が異なっており、二面性があって
興味深かった。現代は、人間の価値観が多様化し、自分から外に出る
という思い、自然や、さまたげないで、物事を認める(認めること)が大切であり、
経験を感じた。

富士河口湖高校・健康科学大学 連携授業 [健康と科学]

第 22 回 「健康に関する東西の見方」

23.1.12

(所属)

名前 山口 輝理

[今日の授業を振り返って]

場所によって価値観や物の見方が異なると感じた。
人間は、自然や人間との関係から、

【2022 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
現代社会と倫理		選択	1	1.2	前期 (前半)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
松崎 昇	D302	noboru.matsuzaki	金曜日 12 : 30 ~ 14 : 40		
授業の目的・概要	<p>[目的] 現代は歴史の大きな転換期にあり、前途不明感が強い。しかしそれは若者にとって大いなるチャンスでもある。このチャンスを生かすためには、事態をしっかりと把握し、自ら能動的に関与していかなければならない。</p> <p>本科目は、受講生が現代社会の応用倫理的諸問題（企業倫理・政府倫理・科学倫理・生命倫理等）に積極的に関心を持ち、自分なりにあれこれ調査考察発表議論できるようになることを目的とする。特に療法士・福祉士になる人にとって、現場での倫理的な把握判断が不可避となる。本科目で、確かな倫理的指針を、各自が感得することができよう。大方の受講を勧める。</p> <p>[概要] 倫理学の基本を踏まえたうえで、現代社会が抱えるさまざまな応用倫理的諸問題を考察していく。生命倫理も扱う。</p> <p>終盤の第6～8回には、Active Learningを行う。①Power Point発表・質疑応答、②Debate、③Discussion、という三形態を用意している。exciting & thrillingな3回となるよう、お楽しみに。Teamsを用いた同時双方向型の遠隔授業となる。</p>				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	1. 国内外の応用倫理的な諸問題に広く関心を持ち、積極的に調べ感じ考えてみること。 2. 毎回の授業で用いる Power Point を事前に up する予定なので、印刷可能な人は print out するなりし、あらかじめ目を通しておくことを勧める。				
教科書	使用しない。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	倫理学について、基本的な事項を説明することができる。			HSU(1)(2)(5)	
②	現代社会における応用倫理的諸問題について、基本的な事項を説明することができる。			HSU(1)(5)	
③	生命倫理等に関し、受講生同士でさまざまに発表・対論・討論することができる。			HSU(3)(4)、PT(3)、OT(1)、HC(6)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	科目の Guidance。 倫理を学ぶ1 (道徳・法律等との相違、義務論、帰結主義)。	同時双方向型遠隔授業	課題を作成し提出する。	2	
2	倫理を学ぶ2 (徳論、3つの理論の整理、応用倫理学)。	同時双方向型遠隔授業	課題を作成し提出する。	4	
3	現代経済倫理を学ぶ (企業倫理・地球倫理)。	同時双方向型遠隔授業	課題を作成し提出する。	4	
4	現代国家倫理を学ぶ (政府倫理・世界倫理)。	同時双方向型遠隔授業	課題を作成し提出する。	4	
5	現代意識倫理を学ぶ (科学倫理・存在倫理・生命倫理)。 Active Learning のための Guidance。	同時双方向型遠隔授業	課題を作成し提出する。	4	
6	AL1 : 受講生による Power Point 発表・質疑応答。	同時双方向型遠隔発表	課題を作成し提出する。	4	
7	AL2 : 受講生による Debate。	同時双方向型遠隔対論	課題を作成し提出する。	4	
8	AL3 : 受講生による Discussion、まとめ。	同時双方向型遠隔討論・授業	課題を作成し提出する。	4	
試					

【2022 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	40	40	0	20	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	10	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	レ	期末 Report を評価する。 着眼点、ならびに調査・考察の質量等に着目する。				Comment を付け、返送する。
	②	レ					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①		受講生による [①Power Point 作成・発表・質疑応答、 ②Debate、③Discussion] を評価する。 着眼点、ならびに調査・考察・発表・発言の質量等に着目する。				Comment を付け、結果を公表する。
	②	レ					
	③	レ					
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	レ	毎回提出する課題を評価する。 調査・考察の質量等に着目する。				Comment を付け、返送する。
	②	レ					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし。						
教員の実務経験	なし。						
実践的授業の内容	なし。						
そ の 他	1. Teams を用いた同時双方向型遠隔授業となる。 各種の同時双方向行為があるので、通信容量無制限の Wi-Fi 環境の確保を勧める。 2. 授業進度等、また今後の新型コロナウイルス感染症の状況等によっては、シラバスの変更もありうる。 その場合には事前に告知する。						



異文化比較論 第7回

文化論・・・まっざき 1/2

1

目次

1. 研究
 2. 文化と文明
 3. 比較文化論
 4. 時空間軸の確立
 5. 西洋人のものの見方
 6. 東洋人のものの見方
 7. 小括 東西におけるものの見方の相違
- [担当2回分の受講状況の評価方法]**
 1. 提出されたRPの内容で評価する。持ち点25点
 2. 第7回 10点 要約(3行以上)、私見感想。
 3. 第8回 15点 要約(3行以上)、私見感想、
 本科目(全8回)を受講して得たもの・感じたこと。
 ●**授業評価アンケート**にご協力下さい。(全8回に対し、書く。)

2

1-1. 研究の入り口

1. 研究の仕方
 - 1) 他人の研究を踏まえる。先行研究に問題点を見つける。囚われ 流行
 - 2) **自分で**研究する。自分で問題点を見つける。自在 新結合
2. 論点整理の仕方 **関係性・異同性**に着目する。
 - 1) 分類 まずは、べしやと眼前に広がる無際限の事象を**分ける**。⇒**分かる言葉**が世界を分ける。
 Ex. 杭を打ち柵を作り囲い込む／森→林→木→…／腑分け／新入職員
 見えてくるもの(細部)／見えなくなってしまうもの(全貌)、両面があることに留意
比較 比べる。同レベルの事項を比べる。→
 比べていいもの／比べてはいけないもの(例:わが子)、双方があることに留意
 - 2) 比較 **比べる**。同レベルの事項を比べる。→

3

1-2. 比較研究

1. 比較は研究の**スタート**。決してゴールではない。
2. 比較とは**異同関係**を論理的に整理すること。比較対象は主に4系統。
 - 1) **空間差** Ex. 1960年代後半のCounter Cultureに関し、日米欧の各特徴
 - 2) **時間差** Ex. 芸術史上の、古典主義からRoman主義への変遷
 - 3) **テーマ** Ex. ロシア小説における祖母の取り扱い
 - 4) **個々の作者・作品間**
 - A) 直接的な関係が既に確認されている場合 A. SmithとD. Ricardo
 - B) ランダム 『源氏物語』と『失われた時を求めて』(M. Proust)
 - C) " 空海とハイデガー

4

1-3. 研究の方法

分析と総合

抽象と拾象 (100 - 90 = 10)

- 分析と総合 (帰納と演繹)
 - 分析・帰納 原理を析出する。[現象→本質]
[論理/時間]を遡って抽象(三捨象)する。結果→原因 現在→過去
 - 総合・演繹 現実を説明する。[本質→現実]
原理から現実を再構築する。論理の階層 原因→結果 過去→現在
- 論理展開の正しさを確保するもの 証明(根拠を添えて説明する)
 - 論証 論理的に無矛盾である。整合性
 - 実証 事実に反していない。真偽性

1-4. 論述の展開方法

標準的な論理展開の仕方 論理の流れ

3. 論文の書き方 事態はどうなっているか?

- 現状把握 問題は何か?
- 問題点析出 その問題はなぜ生じたのか?
- 原因究明 ではどうしたらよいか?
- 打開策提示
 - 従来の方策 企業・業界・政府・専門家・評論家等は?
 - 私の提案 ←ここが勝負処!

☆ただし領域により書式は様々。所属学部の標準的な書式・常識に従う。

ここで
今日の出席をとります

◎ここまでで 1

- これから2回に渡って、
[比較論・文化と文明論・比較文化論・比較文明論]を学習していきましょう。
- ここまでで重要なのは、「研究の方法・論述の展開方法」です。
- ここまで、どうか
感想等でもいいよ。
- っと、ここで出席をとっておきます。

2-1. 文化と文明

- 文明と文化の相違
 - 文明～フランス系 未開から(フランス)文明へ 進歩性・普遍性
登場 18c 啓蒙思想史上で登場。 都市由来
語源 civitas: L: 都市国家, civil: 市民の
- 文化～ドイツ系 フランス文明に対するドイツ文化 基础性・固有成性
登場 19c 啓蒙思想期に登場するも、のちドイツが再着目。
語源 cultura: L: 耕作・教養, cultivate: 耕す 農耕由来

2-2. 文化と文明

2. 現在の用語法
- 1) 文化
 - A) **原初性** 人類=文化 農業
 - B) **日常性** 文化=日常生活全般
 - C) **固有性** 日本文化
 - D) **高尚性** 文化人 芸術
 - 2) 文明
 - A) **発展性** 都市文明
 - B) **高度性** 文明開化、文明の利器
 - C) **普遍性** 西洋文明・現代文明
 - D) **物質性** 自動車文明・石油文明
3. しかし**ほぼ同義**で使う場合も多い。 アメリカ文化≒アメリカ文明
4. 今回は文化論、次回は文明論をやる。

3-1. 比較文化論 1 哲学・思想論

再掲
帰納・演繹

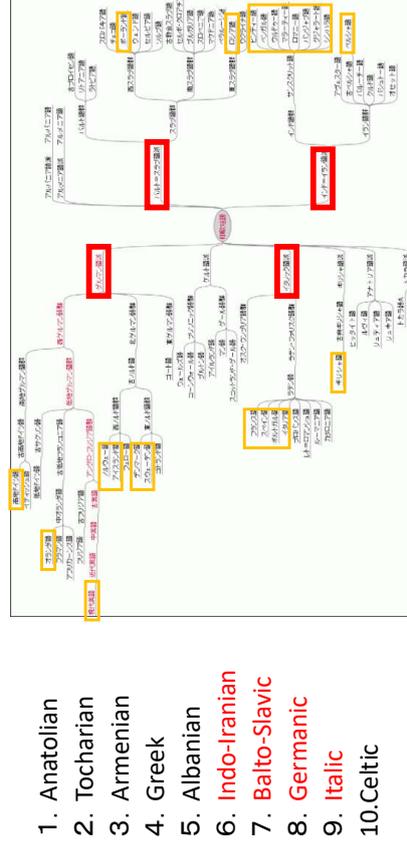
1. **比較哲学**
 - 1) **大陸合理論** R. Descartes『方法序説』1637年 **仏**
演繹法 理論を理性的に展開したい。論理的 失敗すると危ない
 - 2) **イギリス経験論** J. Locke『人間悟性論』1690年 **英**
帰納法 現実を経験的に解明したい。漸進的 まどろっこしい

☆ 笠伸太郎～仏人は考えた後で走り出す。英人は歩きながら考える。
2. **比較思想論** 中村元『東洋人の思维方法』1948年(のち全4冊)
『世界思想史』-1999年(全4冊)
1) 時空間的に比較思想論を打ち立てる。
2) [印・支・日・藏韓] [古代・普遍・中世・近代]

3-2. 比較文化論 2 言語学・宗教学

3. **比較言語学** W. Jones「インド人について」1786年
 - 1) **印欧祖語**の存在を説く。
 - 2) 印欧諸語の展開を研究する。**印欧語族論**(J. Grimm...) →
4. **比較宗教学** M. Müller「宗教学入門」1873年
 - 1) 比較言語学からの影響、Aryan論。
[Abrahamic, Indian, Chinese]に三分する場合が多い。(おいおい...)
 - 2) 比較神話学～ 文化人類学等
各**部族・各地**の神話を採集し、**題材・論理**等を**構造的**に整理分類する。

3-3. 印欧語族 1 これらはみな兄弟語



1. Anatolian
2. Tocharian
3. Armenian
4. Greek
5. Albanian
6. Indo-Iranian
7. Balto-Slavic
8. Germanic
9. Italic
10. Celtic

3-4. 印欧語族2 アーリア人の展開

[Aryan(アーリア人)≡印欧語族]の展開 [Europe, Persia, India, China]
BC2200-BC1900年頃以降、Caucasus北方から南西東の移動展開した。

(Caucasoid: 人種名)
*: 寒冷化による。



13

3-5. 比較文化論3 法学・文学等

5. 比較法学 F. Savigny『現代ローマ法の体系』1840-49年 歴史法学

1) ローマ法とゲルマン法 成文法(民法:市民)と慣習法(部族・農村)

ローマ法が「東ローマ→イタリア(ボローニャ)経由で」ドイツ等、大陸に普及。

2) 大陸法と英米法 成文法と自然法・判例法 法治国家と法の支配

6. 比較文学 文学の国際的比較、文学外との関連を比較研究

7. ほか

1) 地域研究 Ex. 日本文化とアメリカ文化を比較

2) 生活比較 Pop Culture, Sub Cul Ex. 日常の物事をさまざまに国際比較・・・

8. まとめ 比較研究は、全体として、議論のまとまりに乏しい／何でもあり。

14

◎ここまでで 2

1. ここまでで重要なのは、[比較哲学・比較言語学]です。

2. ここまで、どうかかな？
感想等でもいいよ。

15

4-1. 文化の二態

1. 物質の三推展

物質は「物質→生物→人類」と、三段階に展開してきた。人間＝文化

2. 文化に関する二つの見地 人間文化の「突出性と通底性」をどう見るか？

大きく二つに分かれる。突出面重視説と通底面確認説だね。

1) 西洋系 突出性のみに着目し、「人間だけがすごい」とする見地。

2) 東洋系 通底性にも着目し、「人間もまあ他とおんなじやなあ」とする見地。

3 「西洋と東洋」では、文化(もの)の見方・考え方が異なる。

西洋の典型は西欧、東洋の典型は日本(新東洋にして極東洋)である。

4. 中洋は西洋と類似。**ほかには、ない。**



16

4-2. 時間軸と空間軸

1. 人間論 M. Heideggerと和辻哲郎

1) Heidegger 『存在と時間』1927 **人間存在を時間軸**においてみる。

「死に望む存在」が時間を紡ぎ出す。

2) 和辻 『風土』1931 **人間存在を時空間軸**においてみる。

[モンスーン・沙漠・牧場]における各生活様式

2. 文明論 梅棹忠夫と伊東俊太郎

1) 梅棹 『文明の生態史観』1967(1957) **文明を空間軸**においてみる。

[日欧]の平行進化論 中洋論 →

2) 伊東 『比較文明』1985 **文明を時間軸**においてみる。

5段階革命論 [人類・農業・都市・精神・科学]



4-3. 梅棹 日欧平行進化論

1. 人類はAfricaで登場し長らく展開したが、
2. その後2度に渡り脱Africaし、世界展開した。五洋区分
3. **農業・歴史時代以降は、Eurasia大陸(含Egypt)が主要舞台となった。亜**
4. Eurasia大陸は、[西洋・中洋・東洋]に三分できる。
5. **日本と西欧は平行進化した。脱亜・中世**



4-4. 梅棹 中洋論

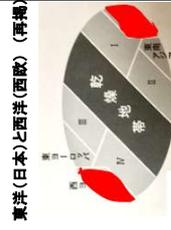
6. 中洋とは、西洋と東洋の真中間に位置する**大乾燥地域**である。

7. ただし西洋と中洋は、乾燥地帯という意味で共通である。大小の差

現在の年降雨量(mm) [西洋744・中洋351・日本1445]

8. ゆえに文化を比較考察する際に大事なのは、

[東洋(日本)と西洋(西欧)]である。(西洋=西欧+他欧+北米+豪)



5-1. 西洋人の見方1...人間の優位性

人間の突出性・独自面を強調すると...人間の人間たるゆえんは、

1. 物質界や生物界を**乗り越えた**ところにある。

2. 自然環境による**制約性を突破**するところにある。

3. **知性を駆使する存在**、という点にある。すなわち人間の本质は、

1) **頭脳**にあり、

2) その機能である**知性**にあり、

3) その発現行為である**知的生産**にある。

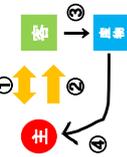
4) その結果として**理論・産物**が生み出される。

例: 道具/衣服・料理・ビル/エアコン・飛行機・スマホ...



5-2. 西洋人の見方2...人為性

- 人為・人工 (art / artificial)こそ、人間の人間たるゆえんだ。
 1)自然等の対象を自分とは別物として対置する。**主体と客体の対立**
 2)対象に**能動的に働きかける**。
 3)そして対象を否定し**変革する**。改造
 4)以上の結果として、人間の生活を暮らしやすくする。
- Humanism (人間主義)
 すべては人間様を中心に回っている。人間がすべてを支配する。
 人間は(→俺達ヨーロッパ人は)何をやってもいいんだ。
- 西洋人が自信を失ったのは、O. Spengler(『西洋の没落』1918-22)から。



5-3. 西洋人の見方3...支配欲

- 西洋人の見地 **【現在主義 × 個人主義】** これ現在の世界を覆う
 1)自然観 自然は**征服**すべき対象だ。**支配**
 2)歴史観 **現在**のみに生きる。
 過去は捨て去るべき下劣なもの、未来はわからないもの。
 3)社会観 個人が**社会を作る**。社会契約説
 すべてのはカネで買える。**貨幣** ↔汚いもの
 すべてを決まりで縛るほかない。**法律** ↔法匪、三百代言
 すべてを説明し尽くさずにはおかない。**言語** ↔言挙げしない
 4)世界観 自国自民族が世界を**支配**する。覇権争い
 2. これにキリスト教が加わる。[Hellenism+Hebraism] (ギリシヤ文化+ユダヤ教・キリスト教)

5-4. 人為宗教によれば...一神教(と仏教)

- 一神教によれば...人間は卑小な被造物にすぎない！ 人生は**罪**である！
 1) Break これ人間無限増長満を**せめて抑止**しなくちゃ。救済
 2)絶対 でも、これはこれで、**唯一絶対神の命令**に絶対服従、という恐るべき
 狂気が生じてしまう。異神・異教徒を絶滅せよ！
 (ただし1962-65年の第二バチカン会議で、**対話の姿勢**を打ち出す。)
 3)独尊 近似発想として[**独裁・独占・独善**]等がある。[一=独]

※ 仏教によれば...人生は**苦**である！ **共に、人生を否定している(←に見ている)**。
 1)無欲 人は無欲であるべきだ。→おいおい、んなの人間じゃないだろ。
 2)解脱 輪廻から解脱すべきだ。→えええ、人稼業やめろってこと??

6-1. 東洋人の見方0...まず東洋とは？

- まず、東洋には二系統ある。
 1) India, China ~ [古東洋・中東洋] = 東洋の**本家**
 2) 日本 ~ [新東洋・極東洋] = 東洋の**極致** = 真東洋
- ゆえに、特に日本民族のあり方・発想を中核としながら、
 広く東洋系の発想を取り扱う。
- 湿潤稲作地帯
 India 東部、China 南部、
 東南亜 / 日本

	時間軸	空間軸	特徴
India, China	古東洋	中東洋	東洋の本家
Nippon	新東洋	極東洋	東洋の極致

6-2. 東洋人の見方1...人間の通底性

人間の通底性・共通面に着目すると...人間も、
1. 所詮、**大自然の一員にすぎない**よね、となる。

1) **氣** 入・出 大氣と人氣 [百会・会陰・勞宮・湧泉] [寶石・木・人間] 氣枯れ
2) **食** 入・出 身土不二 「食が血となり肉となる」 食原病(悪食→病氣)
3) **肚** 人間の中心 意志(覚悟) → 切腹

2. 氣の出入口・溜り場 簡潔化

1) Indian	7つのチャクラ
2) Chinese	3つの丹田
3) Japanese	1つの丹田

6-3. 東洋人の見方2...自然性

東洋 大自然

1. 「自然に」(naturally) 振る舞うことこそ、最高の所作だ。
1) 理想は自然に帰一すること。人間という自然的存在
2) 大自然のなかにくまれていると、心安らぐ。
3) これを西洋人は「主体性が未確立だ」と扱き下ろすが、
2. 体動・心得
「力むなよ」「肩の力を抜いて」「息を吐いて楽に」という系。
3. 日本食
1) 素材が持つ魅力(味)を最大限引き出す。→徹底的に調理・味付
2) 見た目・香り等にも配慮。薄味
3) 器にも配慮。

西洋 人間

4. 日本人が自信を失ったのは、明治から。特に戦後。

6-4. 東洋人の見方3...一員

1. 東洋人の見地 [時空間を遠慮する] 人類古来の智慧

1) 自然観 人間は**自然の一員**として、自然のなかに生きている。共存共生
2) 歴史観 人間は**歴史の一員**として、歴史のなかに生きている。バトンリレー
3) 社会観 人間は**社会の一員**として、社会のなかに生きている。間柄意志を重視した。[知情意]
阿吽の呼吸(言葉は要らない)・不立文字(言葉にできない)
言葉を軽はずみに用いない。言霊
4) 世界観 **人類皆兄弟**(※) 道義

2. 「四方の海 皆はらからと 思ふ世に など波風の たちさわぐらむ」
(明治天皇御製 1904年 生涯に10万首以上、歌を詠まれた)

6-5. 自然宗教は...日本神道

1. 日本神道は...生をおおらかに**肯定**(^^)/
2. 制御方式
1) 自然から 「お天道さまが見ているよ」に恥じないような生きざまをね」
2) 祖先から 「ご先祖様が草葉の陰で見守っているよ」
3) 社会から 「世間様に顔向けができない」
3. **日本神道** 日本人は**人類古来の宗教の特徴をよ〜く残している。豊かな自然**
cf. 山の神・歳神様・竈の神 / 魚供養・針供養...
4. だが**他の多くの民族は、古来の心性・信仰心を捨て去ってしまった。**
過酷な自然に〜ひれ伏す(絶対神の奴隷) / 打ち勝つ(自然という敵を支配)。
人為的に宗教を作り上げ、積極的な攻勢に打って出たのが、一神教・仏教。

「天知る、地知る、我知る、子知る。」(後漢書楊震伝)

7-1. 小括 東西の相違・・・見方



- つまり人間には、二つの側面がある。
 - 本来 **万物の一員** 自然との**共通性**に着目した見方 東洋系
 - 変異 **万物の霊長** 人間の**独自性**を強調した見方 西洋系
- 人間の文化(大自然からはみ出た部分)にも、二つの見方がある。
 - たまたま [物質→生物→人間]の登場 奇跡 偶然 たまたま
 - すごい 西洋系 ここが**すばらしい**ところだ、人間の人間たるゆえんだ!
 - やばい 東洋系 ここが**余計**だ、この**過剰**部分こそが問題なんだよなあ・・・orz
- 結局 人類の本質 [たまたま・すごい・やばい]

7-2. 小括 東西の相違・・・人工と自然

写真を見る時 西 主対象だけを見る。
東 まず背景や関係を見る。

- 能動性と受動性
 - 西洋 能動性 **する・作る**文化 尖った文化
 - 東洋 受動性 **なる・産まれる**文化 包容力豊かな文化
- 人工誇示性と自然親和性
 - 西洋人 **人為・人工こそが最高**である! →加力
 - 東洋人 「もつと自然に」できるだけ**素材を生かそう**よ。 →脱力
人為人工って、作務的だよな。
- 子供観
 - 西洋人 大人中心。子供は野蠻・未完成。人間・大人にする。
 - 東洋人 子供中心。子供は宝。

7-3. 小括 東西の相違・・・医療

- 西洋
 - 対象 **患部**(病傷変箇所)を見る。検査(数値把握)
 - 得意 **外科**、救急、急性、検査、手術
 - 医療 **医者が治す**、患者は**対象**。**侵襲**する。対症療法 なってからきて
 - 食事 **食事は単なる栄養補給**。ガソリン注入
 - 薬 **化学物質**(人工物質)
- 東洋
 - 対象 **患者**(全人)を見る。四診[望・聞(臭覚も)・問・切(脈・腹)] **氣**
 - 得意 **内科**、慢性、氣質・体質(証:陰陽・虚実)、鍼灸
 - 医療 **自分で治す**、医者は**介助**。**自己治癒力**の回復強化。対因療法
 - 食事 **食が血となり肉となる**。医食同源
 - 薬 **生薬**(自然物質)

7-4. 小括 東西の相違・・・根拠

- 人類 **暑熱・乾燥** ↔ その反対が**寒冷・湿润**

温度 様式図
- 西洋(西欧)
 - 氣候 概して**寒冷・乾燥** →**物産が乏しい** 屈辱・恨み
 - 地形・災害 地形単調 災害なし(寒波)
 - ゆえに人間が力を付けてくると 自然に**逆襲し自然を支配**する。
- 東洋(日本)
 - 氣候 多様だが概して**温暖・湿润** →**物産が豊か** 御礼・感謝 (+努力)
 - 地形・災害 地形多様 災害多発(克服困難・やりすぎず) 日本は災害大国
 - ゆえに人間が力を付けてきてても 感謝しつつ自然に**寄り添って**生きる

☆ 中洋 極度の乾燥 (物産に乏しい)・屈服・諦念 →絶対神要請

7-5. とりあえずのまとめ

1. でもって両面を合わせ見ておけば・・・
人間は、人間固有の**独自性**をもっているが(主8:創造性)、でも大自然との**共通性**もあるよね(従2:謙虚性)。
2. すなわち人間は一方で、不断に**新たな**ものを生み出していく力を持っているので、それを**十全**に発揮するとともに、
3. でも他方で、自然への不断の**往復運動**も、**ちよつ**と行った方がいいかな。特に、**内なる自然**としての心身(情緒・腸内環境)への**気配り**が必要だね。でない**と狂気・病氣**に陥ってしまうよ。
(狂気は、それはそれで、豊かな**創造力**を持っているけど。)



◎今日はこれにて終了

1. この部分で重要なのは、[東西の相違]だね。良い悪いじゃないよ。
2. 今日の授業、全体としてどうか？
3. では**Reaction Paper**を記入し、翌日夜までに返信して下さい(10点)。
4. 次回は**【文明論】**です、お楽しみに(´^`)

【社会学と社会システム】第2回 課題 [行為]

学籍番号 _____ 名前 _____

提出期限は土曜の23:59までです。

[1. 迎合（過同調）・同調強要性について]

迎合（過同調）とは、自分の本意ではないけれども自分から相手・周りに合わせてしまうことであり、同調強要とは自分の本意ではないにもかかわらず相手・周囲から同意を強いられることを言う。これらに関し、あなたがこれまで実際に経験した（ないし見聞きしたことがある）事例を1つ取り上げ、事態を説明するとともに、今から振り返って論評してみよう。

（迎合・同調強要のどちらか一つでよい。）

1) 事態

2) 論評

[2. 社会化について]

社会化とは、子供が、いろいろな場面で、社会規範や生活様式を次第に身に付けていくことを言う。順調に身につくこともあれば、なかなかうまく身につかないこともあるし、場合によっては身に付けたくないものもあるかもしれない。これに関し、あなたがこれまで実際に経験した（ないし見聞きしたことがある）事例を1つ取り上げ、事態を説明するとともに、今から振り返って論評してみよう。

1) 事態

2) 論評

[3. me 型人間か I 型人間か]

G. Mead は、自我には me（社会規範を内在化した面）と I（結構勝手気ままな面）があると言いましたが、世の中にも me 型人間(me の要素が過剰な人：社会規範が服を着て歩いているような人) と I 型人間（I の要素が過剰な人：勝手気ままな人)がいます。

さて、あなたは、自分はどちらかと言えばどちらの型の人だと思いますか？ そしてそのような自分を客観的に論評してみよう。

またはどちらかの型の人の特徴的な行為(あなたが見聞きしたことでもいいし架空の状況を描いてもよい)を描き、論評してみてもいいよ。

1) 私は／事例

2) 論評

[4. 役割論の諸相について]

あなたはめでたく希望の業種職種に就くことができ、働き始めました／働いています。

さて、「4-4. 役割論の諸相」より、2つの用語を用い、織り交ぜ、自分の状況を具体的に描いてみよう。もちろん主婦・自営業等の事例でも OK です。

(例：「役割距離」と「役割演技」を用いて書く。)(3行以上)

[5. 自由記述]

今回の授業ならびに課題に関し、よくわからなかったこと、質問したいこと、感じたこと、驚いたこと、なるほどと思ったこと、折を見てさらに突っ込んで考えてみたいと思ったこと、など、何でもいいので、書いて下さい。

【生命倫理 第13回 GPPの作り方 ほか】

22.12 ま

0. これから 第13回授業、GPP発表に関するGuidanceを行います。

欠席予定の人は申し出る（相談：別途1人で作成・送信する等）。

I. 趣旨 Teams上で、原則5～6人1組で、Group Power Point発表を行います。

また各発表末に、質疑応答をします。

そして皆さんが、採点をします。

わいわいがやがや楽しんで作って、発表してみよう。

II. 課題 「生命倫理」に関し、現在の論点を1点とりあげ、具体的に調考する。

これまで授業でやってきた領域・扱った論点でもいいし、授業で触れなかった論点でも結構です。

自分（達）で関心を持った点、なんらか自分達にもかかわってくる点、が好ましいですが、歴史的なものなどでももちろんOKです。

アンケート・インタビュー等を入れてもいいよ。

例：全～自己決定、IC、EBM

産～中絶、人工授精・体外受精・代理出産、出生前診断・着床前診断、DB
生～再生医療、Clone、Enhancement、Bio-Tech、動物（工場・殺処分）、薬物
死～安楽死、脳死・臓器移植、自殺・・・

関連～社会保障制度、医療上のTrouble、医療絡みのBusiness、病院チェーン、
製薬・化粧品業界、理美容・整骨整体等業界、宗教施設…

III. 題名 自分達で独自に付ける。主張を反映したものにする、格好いい題名にする。

IV. 書式 以下のようにする。（中味はもっとあってもよい）

表紙

題名、番号、名前

目次

すべて数字で指示

1.

～

5.

出典

使ったものを2つ以上書く。題名と出所、（使わなければ、なしでよい）

◎ 枚数は、およそ10～16枚

V. 構成

標準的には、以下のようにする。ただし別様も可。

[I. 現状、II. 問題点、III. 原因、IV. 従来の方策、V. 私達の提案]

- I. 現状 まずはPPで扱う領野・論点に関し、現状等の全体像を示す。
- II. 問題点 うち何が問題か、明確に提示する。
- III. 原因 なぜそのような問題が生じた/生じているのか、主要な原因を抉り出す。
- IV. 従来の方策 以上に対し、これまでどのような研究・議論・政策・対策等がなされてきたか、整理する。
- V. 私達の提案 それを踏まえ自分達の主張、すなわち新たな提案を明快に打ち出す。

VI. 留意点

1. 写してはいけない。「調べました、終わり」はOut! 長い文章はいけない。
2. 黒ポツ「・」は必ず消す。すべて番号で階層的に指示表示すること。
3. 全頁に見出しを付ける。目次と各頁の見出し・名称が一致していること。
4. できるだけ身の回りの事象、普段から関心があったこと、授業で触発された事項、等に即すとよい。
5. 自分達でStoryを作る。すなわち自分達の言葉で、首尾一貫したものをまとめる。
6. ①全体像を開示してあること、②論理的に展開してあること、③自分達の主張・新たな提案があること、などを再確認すること。
7. 図表写真等をふんだんに入れる。文章は自分達で短く編集する。
8. 切り貼りはsnipping toolが便利です。下(タスクバー)に置いて使うとよい。
9. 作成はこの1週間のあいだに、メンバーが手分けして、行う。
発表者(または代表者)がそれを統合し、論理・文章・書式等を統一する。
そして発表者のPCに最終版のPPを入れておくこと(USBでもOK)。
10. 発表者名を、あらかじめ先生に伝える(1人:変更の場合速やかに伝える)。
11. 読みでつかえないよう、また時間内で収まるよう、必要に応じ事前に入念にリハーサルをしておくこと。

VII. グループについて

1. 今回、グループは作成済です。2週にわたって、親友になり、GWを、協力して、積極的にやっていって下さい。
2. グループ名、隊長、GPP仮題を決め、2日以内に、隊長がその2点を先生に、個人チャットで、連絡して下さい。先生は原則として隊長さんと連絡を取ります。グループ名・題名は、後日どんどん変わってかまいません。

VIII. PPのアップ方法

1. PP を統合し完成したら、発表者が科目の「ファイル」欄にアップするとともに、同じもの・最新のものを自分で持っていること。PP の up 期限は 12/9 (金) 夜。
2. 科目の「一般」→「ファイル」→「アップロード」→「ファイル」→自グループで発表する PP を探し、アップする。
3. 提出後も、発表当日までどんどん修正してよい。修正版は up する必要ない。

IX. 当日の進行

1. 当日は、全 6 グループが、順次、PP 発表を行います。
グループの順番は、うさぎ～ぺんぎんです。
発表者は、当日、忘れずに、最新版の PP を持ち、表紙を開いておくこと。
先生が、司会進行をします。
2. 当日、各グループの発表は 8 分程度。6～10 分間 OK。その後質疑応答に 5 分程度。
3. 発表の順番になったら、速やかに準備すること。
先生が発表者を、PP 説明できる状態にします、先生の合図を受け、発表スタート。
4. 8 分間前後の発表が終わったら、質疑応答に移ります。
5. 各グループに対し、質問を 4 つ、受け付けます。
質問は 2 種類あります。1 つは指定、もう一つは自由です。
指定質問：前のグループからだれか 1 人が、1 つ、すぐに、必ず質問する。
自由質問：どのグループでも自由に質問する。1 回で 2 点の得点になります。
素早く、マイクを ON にし、大きな声で、グループ名を言って下さい。
先生が、先着順で、グループ名を確認します、確認を受けたら、質問して下さい。
6. 即質即答を心がけること。

X. 採点

1. 採点は先生と Floor の双方でします。以下、受講生の作業。
2. GPP 採点票の表裏（特に採点基準等）をよく読んでおく。
GPP 採点票を印刷し、手元に置いておくことが好ましいが、それがかなわない場合、6 つのグループ名・題名を書いたメモ用紙を手元に置く。
3. 発表する各グループに対し、各人がつける。
各 G が発表・応答を終わった都度、GPP 評価票の表に、たくさんメモを書く。
評価対象は、①PP の内容、②PP の形式、③発表のうまさ（所要時間も含む）、④応答のうまさ、等。各 5 点、計 20 点満点。標準 3 点。
4. 自分達のグループは採点しない。
5. 厳正な評価を心がける。不正が疑われる場合は、原則として、関係者全員の単位を落とす。
6. 後刻よく考えて、GPP 評価票を表裏完成させ、2 日以内 (12/14 まで) に、

Teams 課題機能経由で、返信する。

7. 質問回数＝質問点は、先生が記録します。

XI. 得点

1. ①受講生全員の採点を G 毎に集計（人数を加重平均：20 点満点）。
②先生の採点（20 点満点）。
③質問点 先生がつけます。グループ員全員の点となります。
この 3 種類の合計点が G の得点となります。約 50 点満点となる。
2. 当日出席した G の全員が、G の点を得ます。

(終)

番号	名前
----	----

I. メモ (1Gの発表が終わった都度、自分で自由に記入する。必記。II、IIIを意識して書くとよい。)

	G名	略題名	どうであったか、メモ
1	うさちゃん	安楽死	
2	糞コロ	臓器提供	
3	カルボナーラ	安楽死	
4	カヌレ	臓器提供	
5	おととと	臓器提供	
6	地球グミ	中絶	

II. 評価 (すべてのGの発表が終わったら、上記を見ながら、記入する。)

1. 各項目につき5段階評価をする。とても素晴らしい=5点、素晴らしい=4、ふつう=3点、など。
2. 「総合」に合計点を書く(横に足していく:20点満点)。
3. 自分達は評価しない(空欄のままにしておく)。(欠席のGroupの行も空欄のままに。)

III. 主な採点基準 結果と努力を評価する。

1. PP内容 題名が授業内容に合っているか、発表内容が題名に即しているか、体系的・論理的に展開しているか、など。
2. PP形式 指示に従って書いているか(目次、叙述構成、各頁の仕様、図表文章、見出し、黒ボツをとる)、など。
3. シャベリ 発表者は、大きな声で、しっかりと説明できたか、時間を守れたか、など。
4. 応答 質問に対し、すぐに、的確に答えていたか、など。

IV. GPP評価表

	G名	略題名	1.PP内容	2.PP形式	3.シャベリ	4.応答	総合
1	うさちゃん	安楽死					
2	糞コロ	臓器提供					
3	カルボナーラ	安楽死					
4	カヌレ	臓器提供					
5	おととと	臓器提供					
6	地球グミ	中絶					

【生命倫理 第14回 Group Debate のやり方】

22.12 ま

0. これから 第14回授業、GD（対論）に関する Guidance を行います。

1. 趣旨 論戦してみよう。

1) 3本の論題が立ちます。論題は別途募ります。

第1組 Y/N

第2組 Y/N

第3組 Y/N

2) 各組とも、2グループ間で戦う。

3) 所与の論題に関し、2グループに、Y/Nを割り当てる。

自分（達）の内容的な考えとは無関係に、割り当てられる。

題名・サイドとも、事前に割り振ります。

4) 当日準備するもの シャーペン、GD判定票ないし類似用紙

2. 進行

1) 議論は [立論→対論→結論] の順に進む、該当者全員顔出し。

立論・結論は各3分、対論は10分、計22分間。

2) 2つのグループを、仮にA、Bと表記すると：



1} Aの立論	A1
2} Bの立論	B1
3} 対論	全員
4} Bの結論	B2
5} Aの結論	A2

3) 解説

1) 立論とは、議論を立てること。初めに「私達の主張は○点です」とはっきり言う。

全てに通じることであるが、論拠を明快に出すこと。論拠をめぐる戦い。

2) 対論とは、相互に議論すること。

相手の論を批判し（相手の論拠の不備を突くなど）、自論の正当性を再確認する。

3) 結論とは、これまでの双方の議論を踏まえた上で、自分達の議論をまとめること。

4) 各Partは、Floorに対し appearする。

5) 先生が進行指示します。時間管理も先生がします。

3分間を有効に使い切ること。2分未満で話が終わったら、もったいない。

6) 時間はどんどん進んでいく、もたもたしないで、各Part、すぐにしゃべる。

7) 立論者だけは事前に100%のメモを作っておいてよい。

- 8) 他の人達は、事前メモを用意した方がよいでしょうが、
それに加え、当日の議論の流れを、逐次簡潔にメモし、良く把握する。
これを踏まえ、各 Part 時、議論を臨機応変に組み立て、しゃべる。

3. 判定

- 1) 判定は Floor (当該組でない各人) と先生の双方が行う。以下、Floor。
- 2) 自分の考えを考慮に入れてはいけない。自分の考えとは無関係に、
総合力でまさった G を勝ちとする。
また「仲のいい子がいるから」等のひいきをしてはいけない。
- 3) 理由 しっかりと書く。
- 1} まずは、双方の G の [立論→対論→結論] の各々につき、たくさんメモを取る。
- 2} 議論の形式・内容に関し、以下の諸点に着目する：
論拠がしっかりしていた、議論の流れをしっかりと把握したうえで論じていた、
3分間をしっかりと使っていた、G のみんなが奮闘していた、
困難な主張側であったにもかかわらず、論旨で奮闘していた、等。
- 3} 書き方は、G 名を主語にして書くこと。
例：甲 G は、[立論は・・・、対論は・・・、結論は・・・・] であった。
- 4) 判定 その上で、総合判定し、まさった G を勝ちとする。G 名を書く。
各 G に、議論の良さ悪さの凸凹はありうるが、総合評価する。
引き分けはなし、Even の場合、より困難な側を担当した G を勝ちとする。
- 5) 提出 2日後の夜まで。
- 6) 先生も判定 (先生は引き分けもありうる)。
- 7) Floor からの得票の多かった方のグループが勝ち、10 点。負けたグループは 5 点。
先生も同様の判定。先生が引き分けを付けたら、双方のグループとも 8 点。
20 点満点。 G 全員が得点。
- 8) 誰がどちらに入れたか等は、公表しません。
Floor 票の公表は、判定数だけです。(例：AG に○票、BG に△票)
- 9) 不正行為関係者には厳罰で臨みます (関係者全員、即単位落ち)。

4. 先生に連絡

- 1) [立論者・結論者] の 2 役につき、
誰がどれを担当するか、G 内で決め、隊長が先生に連絡する (後日変更したら連絡)。
- 2) 2 日後 (12/14 (水)) まで。

5. 備考

- 1) 論題に対する主張に関し、条件を付けることもありうる。
こういう場合は反対だが、このような場合なら OK、等。
先生に速やかに相談すること。先生が相手側に相談、決めます。
- 2) 通例は、Debate は、[立論→質問→反論→結論] の順に進む。本授業では変形した。
- 3) 通例は、題名は事前に告知され、Y/N のサイドは当日直前に決められる。同上。
- 4) 2週にわたる GW で、すごく頑張った人貢献した人、全くかかわらなかった人、
をどうするか。加減点。

(終)

[生命倫理 第14回 GD判定票]

番号 _____ 名前 _____

[第1組] 題名 「安楽死を容認すべきである。Y/N」

対決 [うさちゃん=Y (認めるべき) 対 おととと=N (認めるべきではない)]

1. 判定 _____
2. 理由 _____

[第2組] 題名 「出生前診断に基づく中絶は両親の判断に任せて良い。Y/N」

対決 [カヌレ=Y (両親の自由) 対 地球ゴミ=N (規制すべき)]

1. 判定 _____
2. 理由 _____

[第3組] 題名 「臓器提供がもっと増えるよう、策を講じるべきである。Y/N」

対決 [フンコロガシ=Y (講じるべき) 対 カルボナーラ=N (講じるべきではない)]

1. 判定 _____
2. 理由 _____

[I. 判定]

1. **メモ** 他の組の対論中、および終わった都度、
両グループに関し [立論・対論・結論] がどうであるか、どうであったか、
印象等を**たくさんメモ書きしておく**。
2. **質問** 対論 (10 分間) のうち 6 分ほど経過したら、Floor から自由質問を、1~2つ、
募ります。グループ名を言い、先生の確認を受け、質問して下さい。
当事者グループは、誰でもいいので、問われたことに即答します。
質問すると、グループに2点入ります。
3. **判定** (授業終了後) 他の2組に関して、どちらかのGを、勝ちであると判定する。
判定欄に、総合的にみてまさっていたと思うG名を書く。
理由欄に、そう判定した理由を、G名を主語として、**しっかりと**書く。
4. **基準** ①立論者は、簡潔明瞭に、自分達の主張・議論を論じていたか。
②対論者達・結論者は、議論の流れをよく掴み論じていたか。
③全体として、よく調考した跡がみられたか、
④全体として、体系的・論理的に、かつ明瞭的確に、論じていたか。
⑤各人、所要時間をしっかりと使っていたか、等々。
5. **注意** 判定に際し、**その論題に関する自分の考えを考慮に入れてはいけません!**
6. **空欄** 自分達のグループが参加した組は空欄のままとする。
7. **厳正** 厳正に評価判定すること。友人がいるから高評価等は厳禁。
不正が疑われる場合には関係者全員の成績を不可とします。
8. **提出** Teams 上に配信された本判定票に、判定結果を正規に書き込み、
2日以内 (12/21 まで) に返信して下さい。
理由欄は、枠を広げても結構です、しっかりとたくさん書いて下さい。
9. **得点** Floor からの判定点合計で 勝ったグループ 10 点 負けたグループ 5 点
先生の判定点も同じ 勝ったグループ 10 点 負けたグループ 5 点
先生のみ引分けもありうる、その場合は双方 8 点。
合計 20 点満点



【生命倫理 第15回 TDのやり方】

22.12 ま

I. 趣旨

授業でやった全領域に関し、ワイワイガヤガヤ、楽しくしゃべってみよう(^^♪

II. 題材

みなさんから集まった論題から**上位7題程度**を、順に討論していく。

III. 方法

1. 司会等

司会・時間管理は、先生がやります（教室の場合、参加者から司会2人を募る）。

2. 時間

- 1) **正味1時間程度**を確保します。
- 2) 概ね、1は15分、2以下は10分程度でやっていきます。
- 3) 議論の流れ・時間の経過をみながら、先生が、適宜、次の論題に移します。

3. 発言

- 1) まず**名前を大きな声でしっかりと**言って下さい。
- 2) 先生が名前を確認再呼したら、その人がしゃべり始めて下さい。

IV. 得点

1. **1回**中味のあることをしゃべったら**5点。50点満点**。
 2. 先生は、みなさんの発言回数を、正ちゃんマークで、数えていきます。
 3. 目標 ①全員が10点以上Getする。②達者な人は40~50点を目指す。
-

V. 議論

1. 論理

論理は、通例以下のように展開していくのが好ましいです。

- 1) **現状**を把握する→
- 2) **問題点**を析出する→
- 3) **原因**を究明する→
- 4) **従来**の**対策**を把握する→
- 5) **私の提案**を提示する。

2. 発言

- 1) ただしこれを1回毎にすべてしゃべる、というわけではありません。
適当に、自在に、しゃべっていきましょう。
- 2) 話をまとめ、進められる人は、そうして行って下さい。

3. 特に

- 1) 特に**問題点**や**提案**等を、さまざまな角度から、**論拠**を付けて議論してみよう。
- 2) 時空間を自在に行き来する（諸外国の事例、過去の場合、今後どうしたら…）。
- 3) 他の領野で行われていることを随時参考にする、生かす。政府・業界等々

4. 要するに

- 1) 理想的な議論は「**手のひらをたくさん積み重ねていく**」が如しです。
人の話を聞き、それを踏まえた上で発言する、他の人はまたそれを踏まえ…。
- 2) 終始持論に固執し他者とは断固対決あるのみ、という感じではありません。

◎ [柔軟に、楽しく、それでいて真剣に、こぞって] 調考議論しましょう(^^♪

【生命倫理】第14、15回用 【論題募集】

学籍番号 _____ 名前 _____

1. 募集 第14回にはグループ間で、第15回にはみんなで、議論します。
その論題をここで募ります。みんなで議論してみたい論題を書いて下さい。
 - 1) 個数 論題候補を **3つ** 書く。
 - 2) **領野 授業範囲全体 (第1~11回)**。
授業で扱わなかった論点でも、倫理的な問題だと思えば、なんでも結構です。
 - 3) 記載 論題を具体的に用語等で1行書き、その趣旨を文章で1~2行程度書く。
ぜひみんなと一緒に論じてみたいと思う順番に書く。
第13回 (GPP発表) で、自分達のグループが扱う論点を上げてよい。
 - 4) 集計 設問1は3点、設問2は2点、設問3は1点として、先生が、集計します。
近似的な題名は、統合します。
原則として、高得点のものから、順次、論題として用います。
ただし先生が、下の方から引き上げたり、付加したりする場合があります。
その後、先生が下記2行 (第14、15回) のように、割り振ります。
2. 第14回 生命倫理領野から、3題選び、グループ間で対論する。
3. 第15回 全領野から、6~7題程度選び、みんなで討論する (上記3点をどうするか)。
4. **期限 12/9 (金) まで**に、Teams 上で返信して下さい。

5. 論題候補を3つ記載する (授業でやった全領野から: 題名とその趣旨を書く)

- 1) 論題1 みんなで**ぜひこれだけは**しゃべっておかないと **3点**

- | |
|--------|
| 1) 論題: |
| 2) 趣旨: |

- 2) 論題2 みんなで**次に**しゃべってみたいこと **2点**

- | |
|--------|
| 1) 論題: |
| 2) 趣旨: |

- 3) 論題3 みんなでこれもしゃべってみたいな **1点**

- | |
|--------|
| 1) 論題: |
| 2) 趣旨: |

[生命倫理 第15回 TD 論題]

22.12 ま

I. みんなで討論しよう(題名後の数字は得票数)。

- | | | |
|--------------------|----------------|-------|
| 1. 安楽死 40 | | 15 分間 |
| 2. 中絶 33 | 出生前診断、男、胎児 | 10 分間 |
| 3. 脳死・臓器移植 28 | 脳死、臓器提供、脳移植 | 10 分間 |
| 4. 動物実験 16 | | 10 分間 |
| 5. 死刑制度 11 | | 10 分間 |
| 5. 看護 11 | 倫理・医療トラブル・医療ミス | 10 分間 |
| ☆.ここがへんだよ健科大・都留キャン | | 10 分間 |

7. 自己決定 4

7. 自然環境 4

9. デザインド・ベイビー、いじる、科学、監視カメラ、AI、代理出産 3

他. 2点以下 略

II. 進行・発言

1. 司会進行・時間管理は先生がやる。

2. **マイクを on にし、すばやく、大きな声で名前を言う。**

先生が名前を復唱したら、発言する。カメラも on にする。

III. 得点

1. **1回しゃべると5点**、配点 50 点。しゃべればしゃべるほど点になる。

[22 後 経経 期末 Report 課題 等]

以下の【I. 設問等】と【II. 条件】をよく読み、答えなさい。

【I. 設問等】 100 点

以下の 3 問 (各 30 点)、ならびに☆印の問いかけ (10 点)、にすべて答えて下さい。

1. わが国経済は、30 年間以上の停滞に喘いでいます。
また (実質) 賃銀も 1998 年以来低迷しています。
なぜこのような事態に陥ったのでしょうか、調考しなさい。
 - 1) 事態・問題点
 - 2) 原因
 - 3) あなたの打開策
 - 4) 出典
 2. わが国電機業界も、90 年代以降地盤沈下が進んでいます。
なぜこのような事態に陥ったのでしょうか、調考しなさい。
 - 1) 事態・問題点
 - 2) 原因
 - 3) あなたの打開策
 - 4) 出典
 3. あなたは山梨県内で、夫婦で、お店を開いて早 3 年たちます。
 - 1) どんなお店を
 - 2) 日頃どのようなことに留意して運営していますか
具体的に描きなさい。
-

☆. 【この授業を受講して、どうだったですか？】

- 1) まず第 1~12 回 (授業回: 経済・経営) について伺います、どうだったですか？
- 2) つぎに第 13~15 回 (AL 回) について伺います、どうだったですか？
- 3) ほかに全般 (毎週の課題やこの期末 Report も含む)、改善点等、気付いたことがあれば、聞かせてね。

※) この☆印については、1) ~ 3) の一つ以上に関し書けば、一律に 10 点貰えます。

何を書いても、点数・成績には影響しませんので、正直に/自由に、書いて下さい。

※) これとは別に、大学のアンケートには、ぜひ応え、返信して下さい。

【Ⅱ. 条件】

1. 書式

- 1) Word、A 4。1、2、3、☆、の合計で 2880 字を越えること。
- 2) 数値は、左下の文字数を見ること。余裕をもって越えること。

2. 記述方法

- 1) 1 行目真中～経経 期末 Report
- 2) 2 行目右端～番号・名前
- 3) 3 行目 ～問 1 と記し、ただちに解答文を書き始めること。以降同様。
- 4) 表紙は要らない。問題文を書き写す必要もない。
- 5) 1、2、3、☆、の間は、各 1 行空けること。

3. 注意

- 1) 調べる部分等に関し、文書等をたくさん読み込むことになるかと思いますが、各設問につき出典は 1 つ 明記し、あとは「など」で結構です。
例えば Website を用いた場合、題名と Site 名を記して下さい。
原則として、写してはいけません。自分の言葉で要領よくまとめて下さい。
- 2) 打開策は、従来の対策を踏まえ、自分の提案を書くこと。

4. 提出

12/22 (木) 午後 5 時までに、Teams 上で返信して下さい。

5. 質問

- 1) Report 作成上で/中に、わからないこと、聞きたいことがあれば、Teams 上の個人チャットで、先生に、早目に問い合わせして下さい。
- 2) 原則として個別回答しますが、公平な扱い等のため全員に周知連絡する必要がある場合には、問い合わせた人の名を伏せ、随時、全員に向け、科目の「投稿」欄に記載します。期間中、投稿欄に留意して下さい。
ただし見落としても不利にはならないよう、計らいます。

6. 採点基準

下記の点などに着目して評価します。

- 1) 論旨が明瞭である、論拠がしっかりしている、体系的である、論理的である、等。
- 2) 文章になっている（主語述語対応、句読点、誤字脱字）、等。
- 3) 授業中の説明と異なっても、筋道が立っていれば、全く差し支えありません。

【Ⅲ. 成績評価】

1. 配点 **340 点** = 課題 (120) + GPP (50) + GD (20) + TD (50) + 期 R (100)
2. 成績評価 これを適宜割り振る。

2/2
2/18

講義・演習系授業科目

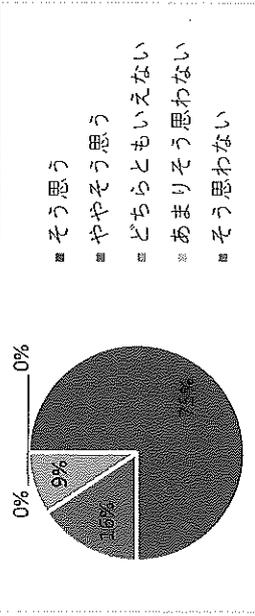
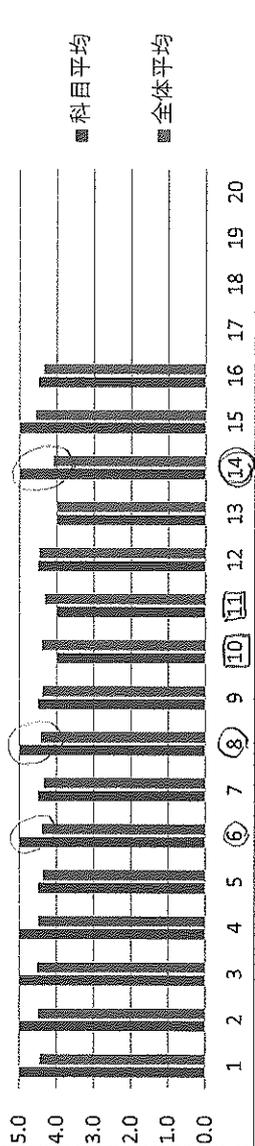
実施年度 2022	集計コード 113401	担当教員氏名(代表) 松崎 昇	科目名 (経済と経営)
--------------	-----------------	--------------------	----------------

履修者数	8
回答者数	2

【集計結果】 5...そう思う 4...ややそう思う 3...どちらともいえない 2...あまりそう思わない 1...そう思わない

設問	回答数					有効	科目平均	全体平均
	5	4	3	2	1			
1 この授業の目標、到達点が明確に示されていた	2	0	0	0	0	2	5.0	4.5
2 シラバスの内容に沿って授業が進行していた	2	0	0	0	0	2	5.0	4.5
3 教員は成績の評価方法をオリエンテーションや講義中に説明した	2	0	0	0	0	2	5.0	4.5
4 教科書の選定、参考書の紹介、資料の配布は適切であった	2	0	0	0	0	2	5.0	4.5
5 板書やスライドの提示方法、内容、速度は適切だった	1	1	0	0	0	2	4.5	4.4
6 予習・復習についての指導、課題・レポートの指示やフィードバックは適切だった	2	0	0	0	0	2	5.0	4.4
7 この授業は学生に興味を湧くよう工夫されていた	1	1	0	0	0	2	4.5	4.3
(8) 質疑応答の機会や疑問が投げられ、質問に対して返答が得られた	2	0	0	0	0	2	5.0	4.4
9 この授業の学習内容のレベルは適切だった	1	1	0	0	0	2	4.5	4.4
10 他の授業科目との関連性が示されていた	1	0	1	0	0	2	4.0	4.4
11 この授業は自分が納得していた授業内容だった	1	0	1	0	0	2	4.0	4.3
12 この授業は自分の将来に役立つと思った	1	1	0	0	0	2	4.5	4.5
(13) 授業を受講していく上でシラバスを活用した	1	0	1	0	0	2	4.0	4.0
(14) 予習、復習を含めた授業時間外にもこの授業に関連する知識の習得に努めた	2	0	0	0	0	2	5.0	4.7
15 与えられた課題やレポートに積極的に取り組み、提出期限を守った	2	0	0	0	0	2	5.0	4.6
16 この授業内容を全体的に理解することができ、興味や関心を持った	1	1	0	0	0	2	4.5	4.4
17								
18								
19								
20								
【平均】	24	5	3	0	0	32	4.7	4.4

【総合グラフ】



4/11

講義・演習系授業科目

実施年度 2022	集計コード 113601	担当教員氏名(代表) 松崎 昇	科目名 (宗教学)	履修者数 11	回答者数 (4)
--------------	-----------------	--------------------	--------------	------------	-------------

【集計結果】 5...そう思う 4...やややと思う 3...どちらともいえない 2...あまりそう思わない 1...そう思わない

設問	回答数					有効	科目平均	全体平均
	5	4	3	2	1			
1 この授業の目標、到達点が明確に示されていた	2	2	0	0	0	4	4.5	4.5
2 シラバスの内容に沿って授業が進行していた	(3)	1	0	0	0	4	(4.8)	4.5
3 教員は成績の評価方法をオリエンテーションや講義中に説明した	(3)	1	0	0	0	4	(4.8)	4.5
4 教科書の選定、参考書の紹介、資料の配布は適切であった	2	2	0	0	0	4	4.5	4.5
5 板書やスライドの提示方法、内容、視度は適切だった	1	1	1	1	0	4	(3.5)	4.4
6 予習・復習についての指導、課題レポートの指示やフィードバックは適切だった	1	2	1	0	0	4	(4.0)	4.4
7 この授業は学生に興味を湧くよう工夫されていた	1	2	0	1	0	4	(3.8)	4.3
8 質疑応答の機会や場が設けられ、質問に対して返答が得られた	2	1	1	0	0	4	(4.3)	4.4
9 この授業の学習内容のレベルは適切だった	2	1	1	0	0	4	(4.3)	4.4
10 他の授業科目との関連性が示されていた	2	2	0	0	0	4	4.5	4.4
11 この授業は自分の将来に役立つと思った	2	1	1	0	0	4	(4.3)	4.3
12 この授業は自分の将来に役立つと思った	2	2	0	0	0	4	4.5	4.5
13 授業を受講していく上でシラバスを活用した	(3)	1	0	0	0	4	(4.8)	4.0
14 予習、復習を含めた授業時間外にもこの授業に関する知識の習得に努めた	3	1	0	0	0	4	4.8	4.1
15 与えられた課題やレポートに積極的に取り組み、提出期限を守った	3	1	0	0	0	4	4.8	4.6
16 この授業内容を全体的に理解することができ、興味や関心を持った	(3)	1	0	0	0	4	(4.8)	4.4
17								
18								
19								
20								
【平均】	35	22	5	2	0	64	(4.4)	4.4

【総合グラフ】

